

「子どもの権利条約」を生かした学校・園づくり

Child Rights Education (CRE) ～ 子どもの権利を大切にする教育 ～

子どもたちが一日の多くの時間を過ごし、学力だけでなく、身心の発達のためにも重要な役割を担う学校・園。ユニセフは、教育現場における子どもの権利の推進を目指し、世界各国で「Child Rights Education (CRE)：子どもの権利を大切にする教育」を提唱しています。

すべての子どもの基本的人権を国際的に保障するために、1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」。日本はこの条約を1994年に批准しています。日本の子どもたちも「子どもの権利」の主体者です。

学校のユニセフ活動では、世界の子どもたちが直面する課題を学んだり、その子どもたちの権利を守るためにできることを考え、募金活動を実施したりしますが、その前提として、子どもも先生も「人権」や「子どもの権利」を理解し、人権尊重の態度を養うこと、また、権利が実現される環境や学びを共につくっていくことが、とても重要です。

子どもたちが自らの権利や人権に対する理解を深め、持続可能な社会の担い手として成長していくために、みなさんの学校でも、「子どもの権利条約」を生かした学級経営や学校・園づくりに取り組んでみませんか？



「子どもの権利条約」全文（政府訳）
https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig_all.html

「子どもの権利条約」日本ユニセフ協会抄訳
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/kenri/syo1-8.html>

「子どもの権利条約」と4つの原則

「子どもの権利条約」では、18歳未満の児童（子ども）を権利をもつ主体と位置づけ、おとなと同様にひとりの人間としての人権を認めています。また同時に、おとなへと成長する過程において、子どもには年齢に応じた保護や配慮が必要な面もあるため、子どもならではの権利も定めています。

子どもの権利を尊重し実践していく上では、常に忘れてはならない「子どもの権利条約」の4つの原則があります。この4つの原則は、それぞれ「子どもの権利条約」の条文に書かれた権利であると同時に、条約で定められている他の権利を考えると同時に、常に合わせて考えることが大切です。

生命、生存および発達に対する権利 （命を守られ成長できること）

すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障される。



子どもの意見の尊重 （意見を表明し参加できること）

子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮する。



子どもの最善の利益 （子どもにとって最もよいこと）

子どもに関することが決められ、行われる時は、「その子どもにとって最もよいことは何か」を第一に考える。



差別の禁止（差別のないこと）

すべての子どもは、子ども自身や親の人種や国籍、性、意見、障がい、経済状況などいかなる理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障される。



「子どもの権利条約」4つの原則

子どもの権利が守られる社会

国が条約を批准することは大きな一歩です。しかし、批准しただけでは子どもの権利が守られるようにはなりません。国の司法や行政だけでなく、先生方や保護者など子どもに関わるすべての人に、この条約に記された権利が実現されるように取り組むことが求められています。

日本の子どもたちの抱える問題としてよく取り上げられる、いじめや差別、自己肯定感の低さや無力感なども、子どもの権利に深く関わる問題です。「子どもの権利条約」の原則が守られ、子どもたちが安心して日々を過ごしながらか健康やかに成長し、その可能性や能力を十分に伸ばすことのできる社会。それがユニセフの提唱する、子どもの権利が守られる社会の姿です。

子どもの権利を大切にする教育とは？

「Child Rights Education (CRE)：子どもの権利を大切にする教育」は、学校・園での教育活動のあらゆる場面において、子どもの権利を推進していくことを目指します。その取り組みは主に4つの側面で構成されています。

● 権利としての学び

すべての子どもに、あらゆる差別なく公平に教育を受ける権利があります。すべての子どもが質の高い義務教育を受けられること、またその後の成長過程においても学ぶ機会が与えられることが、保障されていなければなりません。

● 権利についての学び

学校での授業や活動を通して、人権や「子どもの権利条約」について学びます。子どもたちは自らの権利について知ると同時に、他の子どもたちにも同じ権利があることに気づき、多様性を認め、お互いを尊重しあう態度を身につけていきます。また、人権の学びを通しておとなにも権利があることを知り、おとなと子どもの相互の尊重にもつながります。

● 権利を通しての学び

学校・園のあらゆる面で「子どもの権利条約」の精神を尊重した環境を整えていきます。常に子どもの最善の利益が考慮されること。すべての子どもが差別や偏見、暴力から守られること。子どもの声に真剣に耳を傾けること。これらを実践していくことで、子どもたちは自らの権利と尊厳が守られた環境で学び、その可能性を伸ばしていくことができます。

● 権利のための学び

子どもたちが自らの権利について学び、権利が尊重された環境で学ぶことは、他者の権利にも目を向け、行動する学びへとつながります。地域社会や国際社会に目を向け活動することで、社会に貢献する力を培い、持続可能な社会の担い手としての成長につながります。

よりよい学校・園づくりのため、そして子どもたちの健やかな成長のために、下記、関連資料もご覧の上、ぜひこの「Child Rights Education (CRE)：子どもの権利を大切にする教育」を取り入れてみてください。

CREの樹を育てよう



CRE関連資料の紹介

ユニセフCREハンドブック 「子どもの権利条約」を学級経営に生かそう

「子どもの権利条約」やCREについて、実践のヒントも交えて簡潔に紹介しています。



先生方向けCREウェブサイト OPEN!



www.unicef.or.jp/kodomo/cre/

「ユニセフCREハンドブック」の内容の他、学校・園で役立つCRE関連の情報を随時、更新していく予定です。ぜひ、ご活用ください。